

防起第 1181 号－3
令和 8 年 10 月 1 日

鳥取県知事 平井 伸治 様

米子市長 伊木 隆司

島根原子力発電所 2 号機において計画するプルサーマル発電に対する意見について(回答)

令和 8 年 8 月 26 日付第 202600132212 号で依頼のあった標記の件について、下記のとおり本市意見を回答します。

本市意見を踏まえ、意見を取りまとめていただきますようよろしくお願いします。

なお、別紙のとおり本市議会から出た意見を添えて回答します。

記

令和 8 年 6 月 24 日付け「島根原子力発電所 2 号機におけるプルサーマル発電に関するご説明等について」（島原本広第 3 号）で中国電力から申し入れのあった件について、これまでに資源エネルギー庁及び中国電力から、自治体、議会及び地域住民に対して説明が行われてきた。

また、9 月 6 日開催の令和 8 年第 1 回鳥取県原子力安全対策合同会議においては、鳥取県原子力安全顧問から「島根原子力発電所 2 号機プルサーマル計画に対する意見」について説明があった。

これらの経過により、島根原子力発電所 2 号機において、ウラン燃料と MOX 燃料の違いを踏まえた安全対策が施されることについては、説明を受けた範囲において、本市として理解をすることができた。

しかしながら、住民説明会や鳥取県原子力安全対策合同会議において、地域住民からはプルサーマル発電に対する安全性についての質問も出され、それに対して資源エネルギー庁及び中国電力から回答される場面もあった。

したがって、今後、国の責任において、MOX 燃料の健全性やその取扱い等をさらに詳細に審査されることから、その結果が示された段階で、中国電力から審査結果の説明を受けた上で、本市としての最終的な意見を表明する。

なお、今後の手続を進めるに当たっては、国及び中国電力に対して、次の事項を求める。

<中国電力に対して>

- 1 今後実施される設計及び工事の計画や保安規定変更に関する審査の手續に対し、真摯に対応すること。
- 2 MOX 燃料を取り扱う際の作業手順等に関して、人的ミスを防ぐための具体的な取組を行うなど、更なる安全性向上に向けた不断の取組を進めること。
- 3 プルサーマル発電における原子炉の運転管理、運転上の制限、MOX 燃料の管理など、各種マニュアル等を含む運用面について、周辺自治体及び住民に対して、丁寧かつ分かりやすい説明を行うこと。

<国に対して>

- 1 今後実施される各種審査において、厳格な審査を行うとともに、継続的に安全が確保されるよう適切に指導監督すること。
- 2 核燃料サイクル政策における課題については、政府が責任を持って対処すること。
- 3 原子力災害発生時の避難対策など、原子力防災について、関係自治体に対して十分な支援を行うこと。併せて、原子力防災を行わなければならない周辺自治体に対して必要な財源措置を行うこと。

米子市議会全員協議会から出された意見等について

【質問・意見要旨】

A議員

- ・米子市における住民説明会が1回のみであった点や、米子市安対協が開催されなかったこと、さらに鳥取県原子力安全対策合同会議では委員への開催通知が遅れ、資料配布が直前になるなど、これで十分な説明や住民理解が進んだと考えているのか。
- ・MOX燃料の調達先や必要量(60体では不足する)、六ヶ所村再処理工場の竣工遅延を踏まえたMOX燃料の調達先はどのような状況なのか。また、国内で調達できない場合、核燃料サイクルを推進できたと考えるのか。
- ・確率論的リスク評価(PRA)について、今後、積極的に評価するのか。どのような方針か。
- ・米子市は住民説明会を中国電力に求めるとともに、米子市安対協を開催する考えはないか。
- ・MOX燃料を60体以下で使用するということがあるのか。
- ・フランス製60体以外のMOX燃料調達に関して、現時点で決まったものや目処があれば教えてほしい。MOX燃料がなくなったら、ウラン燃料でやるのか。
- ・2029年にプルサーマルが実施できると考えているのか。また、再処理工場の稼働が遅れた場合の代替案はあるのか。

B議員

- ・これまでのご説明や現地での説明を受け、ウラン燃料とMOX燃料の違いを踏まえた、原発内の安全対策が施されることについては説明を受けた範囲において、理解することができた。
- ・ウラン燃料とMOX燃料の燃焼後において、万が一の過酷事故発生時に飛散する核種に違いがあるのか。
- ・MOX燃料特有の核種(アメリシウムなど)について、わずかなリスクであっても万が一米子市に飛来した場合の物性や体内動態(肝臓への蓄積や吸入・経口によるリスクの違いなど)の知識を持っておく必要があると考えており、中国電力にはそれらの情報提供をお願いしたい。
- ・ゼロリスクはないため、万が一の際にごくわずかなリスクに対しても自治体が住民へ正確に安全対策(対処法)を伝えられるよう、より詳細な説明を求めていくべきだと思えるが、米子市の考えを教えていただきたい。

C議員

- ・ウラン燃料とMOX燃料で安全性に「大差がない(向上するわけではない)」とされている一方で、新たな対策や手順の追加によって、事故等のリスクが上がるのではないか。
- ・島根2号機は、運転期間40年超えの認可(特別点検)をまだ受けていない段階でプルサーマル発電の手続きを先行して行うことに関して違和感があり、国が行う審査手続きも形骸化しているように感じている。
- ・浜岡原発の耐震データ不正問題は、早期の再稼働を最優先する姿勢が原因であったと言われており、島根2号機のプルサーマル発電に関する進め方も、本来であれば運転期間の延長の認可

等を受けてから進めるのが順番だと思うが、逆になっていると思う。

今回のプルサーマル発電が最優先と感じるような進め方には大きな問題があると感じるため、今後の手続きを一旦ストップしていただきたい。

D議員

- ・現時点で既にプルサーマル発電については実施されており、国外を含め事故などの不具合は発生しておらず、その安全性については理解することができた。
- ・専門的な内容が含まれるため、住民がすぐに理解できるものではないため、中国電力には、今後も引き続き分かりやすい説明を継続していただきたい。
- ・プルサーマル発電の実施に伴い、現在の原子力防災対策や広域住民避難計画の見直しの必要性はあるか。
- ・プルサーマル発電に関しては感情や印象ではなく、科学的知見やこれまでの国内実績などに基づき「正しく恐れる」ことが重要である。
- ・米子市には国や中国電力から得られる情報を的確に把握し、市民の疑問や不安に丁寧に向き合っていていただくとともに、中国電力においても、安全性について市民が十分に理解できるよう専門的な内容であっても分かりやすく丁寧な説明を継続していただきたい。

E議員

- ・鳥取県原子力安全顧問の説明を受けた範囲において、プルサーマル計画の安全性が確保されるという判断について、理解し、尊重する。
- ・市民はプルサーマル発電計画について十分に理解している状態ではなく、中国電力には丁寧な説明を求める。
- ・現地視察を踏まえ、遮蔽体の取り付けによる作業難易度の上昇や作業的ミス、構内の扉の多さから、挟まれや転落事案発生への懸念、クレーン作業等安全管理への懸念を感じた。また、入域時には防護服などの装備品を着用しなければならないが、暑い時期の熱中症対策についてどのような対策が行われているのか。
- ・ウラン燃料と MOX 燃料の配分を間違えない仕組みを検討するのか。
- ・国際的な安全評価機関や日本の安全評価機関(WANO や JANSI など)による安全の確認など、安全対策に向けた取組を評価しつつ、引き続き不断の安全対策の取組を行っていただきたい。

F議員

- ・どのようなイメージで今後の住民への説明を進めていくのか。
- ・米子市内での開催場所や開催単位を工夫し、多くの市民が理解しやすいように努めていただきたい。
- ・今後の国の詳細な審査結果が示される前の段階では判断ができないという米子市の姿勢については同じ思いであり、現時点で議会としても態度を表明する段階にはないと考えている。

G議員

- 現在、燃料プールが約 6 割使用されており、残り 4 割で 10 年分の容量があると説明されたが、プルサーマル発電を実施することで貯蔵量がどう変化するか。
- 燃料プールから搬出するのにどの程度の期間を要するのか。